

北海道札幌平岸高等学校の取組【読書：図書館活用授業】

1. 研究のねらい

今年度は図書館で札幌市電子図書館を利用した授業研究を行った。札幌市電子図書館は、タブレット端末を図書館に設置し、生徒は札幌市の貸出券を取得すれば利用可能なので導入も簡単で、タブレット端末を教室へ持って行き利用することも可能である。

昨年度から行っている札幌市電子図書館のデジタル絵本の制作も北海道博物館の依頼で博物館の紹介デジタル絵本の他に、生徒の創作デジタル絵本を制作し、小学校で読み聞かせを行い、生徒の読書への興味・関心を高めることをねらいとした。

2. 取組内容

(1) 学校図書館での札幌市電子図書館活用授業

① 広報さっぽろを活用した図書館活用授業

札幌市電子図書館では、広報さっぽろのバックナンバーが電子図書化されている。授業を行うにあたって生徒が札幌市図書館の貸出券を発行してもらい、図書館にタブレット端末を設置して授業を行った。

札幌市の子育てサービスについて、グループごとに広報さっぽろのバックナンバーを活用して、どんなサービスがあれば子育てする際に助かるか調べ、発表を行った。



② デジタル絵本を活用した図書館活用授業

2014年10月からスタートした札幌市電子図書館には、デジタル絵本のライブラリーが多数ある。中でも「おぼけのマール」は、三岸好太郎美術館や青少年科学館の絵本があることから、北海道博物館のデジタル絵本のストーリーやページ構成の参考にし、アイデアスケッチの際に図書館で閲覧し、活用する授業を行った。



(2) 札幌市電子図書館のデジタル絵本活用授業

① 北海道博物館のデジタル絵本制作

リニューアルオープンした北海道博物館の依頼で、札幌市の読書キャラクターの「おっほん」が新しい北海道博物館を紹介するデジタル絵本を2年生、3年生の選択授業で各1冊制作し、札幌市電子図書館よりリリースした。また、7月5日に北海道博物館の展示室内で読み聞かせ会を行った。



②西岡小学校でのデジタル絵本読み聞かせ

昨年度に引き続き、札幌市電子図書館で小学校低学年向けのデジタル絵本を7冊「神様の動物と悪魔の動物」、「マッチ売りの少女」、「欲張りな犬」、「煙草と悪魔」、「スズの兵隊」、「オオカミと7匹の子ヤギ」、「赤い靴」を出版した。12月16日には、西岡小学校の3年生にデジタル絵本の読み聞かせを行った。

札幌市電子図書館の独自資料のランキングで「欲張りな犬」が「おぼけのマール」を抜いて1位になった他、残り6冊も11位までにランキングされた。



3. 成果と課題

(1) 成果

今年度は、札幌市電子図書館を、学校図書館での授業において初めて活用したが、生徒はすぐに図書館資料の中からキーワード検索で、目的の資料を検索し、活用することができた。

タブレット端末を使えば、いつでもどこでも図書館資料を使った学習が可能となり、学校図書館にある資料も電子図書館の資料に加えることができれば、更に多くの学習場面において活用が図れると思われる。

札幌市電子図書館は、パソコンでもタブレット端末でも利用が可能であり、タッチパネルでの操作や文字の入力も簡単である。10インチ程度の画面サイズであれば、生徒は教科書やノートと一緒に机の上に置くことができ、また、40人の生徒が一斉に資料を利用することができるなど、さまざまな可能性があると思われるので、今後も積極的に活用していきたいと思う。

また、今年度は北海道博物館と連携し、デジタル絵本を作成したことから、北海道の歴史、経済、文化などについて学習することができた。



(2) 課題

電子書籍は、その多くが有料コンテンツであり、出版社から図書館への提供がないため、普及が遅れている。また、電子教科書は、紙の教科書のような無償化には至っていない。しかし、書籍や教科書のデジタル化が促進できたならば、多くの生徒による一斉利用が可能となり、膨大な資料からの検索も容易となるため、生徒の学習の機会が一層広がると考える。

今回、子育てをテーマに授業を行ってみて、生徒は、将来どのように子育てをしていくかについて学ぶことができた。北海道全体では、今後人口減の問題が様々な場面で大きな課題になると想定されるが、地域の生活に関わる資料として、広報さっぽろのライブラリーは貴重であり、各学校の図書館でも利用できると良いと考える。